



発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス JSQC規格の英訳
- 2-私の提言 良い仕事、良い就職、良い企業とは
- 2-ルポルターージュ JSQC規格「方針管理の指針」講習会ルポ
- 3-第51年度品質管理推進功労賞推薦のお願い/2022年1月の入会者紹介
- 4-行事案内/第51年度研究助成募集中/論文募集/会員登録情報更新のお願い/ ANQ Congress 2022 Beijing

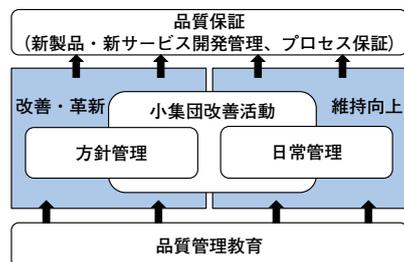
JSQC規格の英訳

標準委員会委員 中條 武志

TQMの活動要素を扱った6つのJSQC規格の英訳版が揃いました。

JSQC規格英訳のねらい

TQMは変化に対応する、変化を生み出せる組織能力を獲得するための方法論です。TQMを実践する場合、組織で働く一人ひとりが顧客重視、PDCAサイクル、全員参加などの原則を理解した上で、1) 新製品・新サービス開発管理、2) プロセス保証、3) 方針管理、4) 日常管理、5) 小集団改善活動、6) 品質管理教育などの具体的な活動に取り組む必要があります。これらはTQMの核となる活動という意味で活動要素と呼ばれます(図・1参照)。



図・1 TQMの核となる活動要素

各活動要素の役割・位置づけ、推進におけるポイントを理解しておくことは、活動要素を効果的に組み合わせてTQMを実践していく上で大切です。このため、日本品質管理学会では、2013~2019年にかけて6つのJSQC規格を発行してきました。

しかし、事業がグローバル化し、コトづくりを目指して顧客やパートナーとのより密接な連携が求められている

状況を考えると、日本人だけがこれらの規格の内容を理解していてもだめで、海外の人に広く知ってもらい、活用してもらうことが大切です。

このような思いから、標準委員会が中心になって進めてきたのがJSQC規格の英訳です。最初の英訳版の発行が2014年で、6番目の「新製品・新サービス開発管理の指針」の英訳版が発行されたのは2022年1月です。

JSQC規格翻訳の仕組み

JSQC規格の翻訳版の発行の仕組みについては、「日本品質管理学会規格翻訳内規」に定められています。

- (1) JSQC規格の翻訳を希望する委員会、部会、研究会、会員は、翻訳目的、スケジュール等を文書で提案する。
- (2) 標準委員会は、提案文書に基づいて、JSQC規格の目的・範囲に合っているかどうかを審議し、妥当と判断した場合には、翻訳委員会を設置する。
- (3) 翻訳委員会は翻訳案を作成する。
- (4) 標準委員会は、翻訳案を確認し、理事会の承認を受けて発行する。

翻訳委員会のメンバーは、標準委員会の委員4~5名が務めています。また、下訳の作成や翻訳案の英文チェックについては、インド、米国、英国などの品質管理専門家の協力を得ています。さらに、下訳の作成費用は、企業から

の寄付金など、外部資金を活用しています。

翻訳版の規格番号は、(E)などを付けて区別することになっています。また、日本語版のJSQC規格は、現在のところ紙媒体で頒布していますが、翻訳版については、海外の人が購入・利用する機会が多いことを考慮し、PDFファイルによる頒布を行っています。価格は1部25\$ (会員20\$) に設定していますが、なるべく多くの人に活用してもらうために、購入部数による大幅な割引を設けています(例えば、100部で7割引など)。

JIS規格やISO規格との連携

「新製品・新サービス開発管理の指針」を除く5規格については、JIS化が図られています(JIS Q 9023、9026~9029、9029は準備中)。また、これらのJIS規格の英訳版の作成も、JSQC規格の英訳版を活用して順次進められています。

ISO 9001などの品質マネジメント関係の国際規格を開発しているISO/TC176との連携も、標準化委員会のメンバーがTC176の主要メンバーに、JSQC規格やJIS規格の英訳版を紹介する形で行われています。

英訳版の作成は、関係者の献身的な努力で支えられていますが、TQMの活動要素を扱った6つのJSQC規格の英訳版が、より多くの人に活用され、TQMを正しく理解し、効果的に実践する手助けとなることを願っています。

● 私の提言 ●

良い仕事、良い就職、良い企業とは

神戸学院大学 今野 勤



デジタル大辞泉で、仕事について次のような解説がある。

① 何かを作り出す、または、成し遂げるための行動

② 生計を立てる手段として従事する事柄、職業、……とある。

すなわち、何かを作り出し、あるコトを成し遂げ、それで生計を立てるコトと解釈できる。また仕事には目的があり、諸説あるが要約すると次の4つと考えられる。

- ① 生きていくためのお金を得る
- ② 自分自身が成長する
- ③ 社会の役に立つ

④ 没頭して人生を楽しむ

これらは相互に関係があり、どれが欠けても仕事の目的が成立しない。生きていくお金がなければ、生活が困難であり、自分が成長しなければお金が増えない。お金は社会からいただくものであり、仕事を通じて社会に役立った結果である。これらのことを長い時間続けるには、仕事に没頭して人生を楽しまなければならない。仕事を選択するには、大概の学生は組織に属するが、組織の当たり外れによって人生は大きく左右される。

そこで、就職について、世界大百科事典 第2版によると“就職とは、職業に就くことであり、新しい職場を得ることであるが、……職業選択の結果であり、……新しい生活様式へ移行する

ことを意味する。……”とある。良い職業を選択するには、良い就職先を選択し、組織とともに個人が成長していく必要がある。では良い組織とは何か、大半の学生が就職する組織すなわち民間企業に置き換えて考える。

経営の神様、ピーター・ドラッカーは、企業の目的は「顧客の創造である」といった。良い企業は、良い顧客に恵まれ、市場を形成し、収益を得ることと解釈できる。さらに社会に貢献し、良い評価を得ることもできる。良い人生を送ることを期待する学生にとって、良い企業を選択が大切である。

企業を評価するには、企業活動が大事だが、結果から判断するとわかりやすい。その一つの方法が有価証券報告書の財務諸表である。就活生に聞いてみると、業界動向や財務諸表を調べず、企業の知名度や会社説明会の内容で応募を決めている。財務諸表は企業の一つの通信簿と考え、分析することが大切である。自分の将来を輝かすためにも、良い企業を選択していただきたい。

JSQC規格 講習会 レポート

方針管理の指針 「方針管理によって 改善・革新を促進する」

2022年2月14日(月)午後、JSQC規格「方針管理の指針」講習会がオンラインで開催されました。参加者は30名でした。講師の村川賢司先生(村川技術士事務所)は、2016年に発行された本規格の原案作成委員長並びに審議委員です。

本規格はJIS規格の「方針管理」の原案になっているそうです。

解説は、規格書に沿って、特に「6章 部門における方針管理の進め方」をメインに進められました。

さまざまな階層で方針を策定している組織はめずらしくありません。それらの方針が事業目的の達成にむけて運用されているのかどうか、自組織の現状をチェックするために本規格は大変有用であることがわかりました。

方針の三つの構成要素「重点課題、目標、方策」が、方針管理の三つの流れ「展開、集約、環境変化への対応」で上位下位と双方向でつながっているか、特に下位か

ら上位への流れをおろそかにしていないか、という点が記憶に残りました。

TQMの中核活動であるプロセス・システムの維持向上・改善・革新において、日常管理は「維持向上」を、方針管理は「改善・革新」を担い、実務では「約八割が維持向上の日常管理」であり、顧客ニーズや経営環境の変化に対応するために方針管理で改善・革新して目標を達成する、いう両輪であることが理解できました。これを聞き、JSQC規格「日常管理の指針」講習会へも参加することを決めました。

質疑応答で、自社の現状に課題意識を持つ会員から、実務における方針管理の先進的な成功事例と形骸化の回避策について質問がありました。現状を確認し課題を特定する、品質月間テキストやデミング賞受賞企業の書籍を参考に、デミング賞受賞企業を訪問ヒアリングする、などの助言がありました。

管理会計を研究している会員からは予算管理と方針管理の連携について、また方針展開後の責任の所在について質問がありました。

TQMにおける方針管理の運用と、実務での課題解決に資する規格の有用性を理解できた講習会でした。

佐々木 聡美 (プラクティカ・ソリューションズ)

第51年度 品質管理推進功労賞 学会員の皆様 候補者の推薦をお願いいたします！

日本品質管理学会品質管理推進功労賞は、品質管理推進に尽力されている多くの方々に活力を与え、品質管理の発展がより加速され、ひいては産業界の発展に寄与できることを願って創設されました。本年度は第22回となり、次の要領で実施いたしますので、奮ってご推薦の程お願いします。但し、推薦にあたっては次の点にご配慮ください。

- 1) 本賞選考の推薦は全てEメールにてお願いします。
- 2) 推薦に際しては、予め被推薦者の了解を得て、被推薦者本人の確認を受けた書類を送付してください。

記

本賞の授賞資格（品質管理推進功労賞内規）：

以下のいずれかの条件を満たす会員とする。

- 1) 企業・各種団体（以下、組織という。）に所属し、所属組織の品質管理の実践と推進に多大な貢献をした、もしくは、していると認められる者。
- 2) 組織に所属し、本会に対する多大な貢献があった、もしくはある者。
- 3) 組織に所属し、品質管理に対する造詣が深い者。
- 4) 本会の役員2名以上の推薦があった者。

本年度選考方針：

- a. 本年度は、既に本来の所属企業を退職している人も対象として含めるものとし、表彰対象者数は、6名以内とする。
- b. 地域・社会への貢献を重視する。
- c. 本賞対象者の推薦に際しては、55～65歳位を目安とし、70歳以上ならびに50歳以下は避ける。
- d. 本来の所属企業で取締役になった人は避ける（理事、執行役員は対象とする）。但し、子会社等へ出向し役員になった方は候補者に含めて差し支えないものとする。
- e. 51年度のJSQC理事は、今年度の推薦対象者から外す。
- f. 特定の企業に属さず個人として品質管理の普及・発展に著しく貢献する活動を長年行ってきた人を含む。

評価項目：

本賞の候補者に対して、主に次の観点から評価を行う。

【A】 所属組織への貢献

- a 1 TQC/TQM/標準化/QCサークル活動等の推進
- a 2 品質管理に関する表彰・認証等の受審支援
- a 3 品質保証体制の確立
- a 4 その他特筆すべき活動

【B】 地域・社会への貢献

- b 1 日本品質管理学会の発展
- b 2 デミング賞委員会/品質月間/関連学会等の活動を通じた品質管理の普及・発展
- b 3 標準化推進を通じた品質管理の普及・発展
- b 4 QCサークル活動の普及・発展
- b 5 日科技連/規格協会等の関係諸団体への協力を通じた品質管理の普及・発展
- b 6 品質管理に関する国際協力
- b 7 品質管理への深い造詣に基づく著作等の活動を通じた品質管理の普及・発展
- b 8 その他特筆すべき活動

推薦必要書類：

推薦書（様式219-1）、業績リスト（様式219-2）、上司等の推薦書（様式219-3、上司等とは、元・上司、現・関連部門長を含むものとする。候補者が選考方針fの場合、上司等とは品質管理について師事する者またはそれに相当する者を含む。）

様式については、下記Webページよりダウンロードしてください。

URL：<http://www.jsqc.org/2022ACPQM/>

業績リスト（様式219-2）の業績については、左記の評価項目に対応した記述にしてください。

推薦締切：2022年6月30日(木)

推薦書類提出先：2022kourou@jsqc.org

選考：日本品質管理学会 品質管理推進功労賞選考委員会が行う

発表：9月に開催される本学会理事会での承認後、本人ならびに推薦者に通知

表彰：第52回 年次大会 授賞式

連絡先：日本品質管理学会事務局

参考：https://jsqc.org/ACPQM_list/

2022年1月の入会者紹介

2022年1月20日の理事会において、下記の通り正会員4名、職域会員2名、賛助職域会員1名の入会が承認されました。

（正会員4名）○高木 修一（富山大学）

○川口 達也（栗田工業）○小林 亨（東レ）○西平 優（大阪急性期・総合医療センター）

（職域会員2名）○水内 賢二（岡谷電機産業）○村瀬 正和（豊田自動織機）

（賛助職域会員1名）

○田中 裕幸（愛知製鋼）

名誉会員：22名 賛助会員：152社224口
正会員：1673名 賛助職域会員：13名
準会員：90名 公共会員：17口
職域会員：49名

行事案内

●第128回クオリティトーク（東日本）

テーマ：若手品質管理屋の目
～品質管理の現場事例レポートと
これからの品質管理～

ゲスト：小茂田 岳広 氏（トヨタ自動車）
日 時：2022年3月25日（金）18:00～20:15
会 場：Zoom会議室（オンライン）
詳細・申込：<https://jsqc.org/128qtalk/>

●第131回QCサロン（関西）

テーマ：医療サービスにおける経営品質の
取り組み

ゲスト：斎藤 哲哉 氏（福井県済生会病院）
日 時：2022年4月19日（火）19:00～20:30
会 場：Zoom会議室（オンライン）
申込先：関西支部事務局
詳 細：<https://jsqc.org/131qsalon/>

●JSQC規格「品質管理教育の指針」講習会

日 時：2022年4月25日（月）13:30～17:30
会 場：Zoom会議室（オンライン）
講 師：永田 靖 氏（早稲田大学・JSQC会長）
プログラム：

1. JSQC規格「品質管理教育の指針」
制定のねらい
2. 品質管理教育の基本（4章、5章）
3. 品質管理教育の計画（6章）
4. 研修プログラムの運営（7章）
5. 品質管理教育の評価・改善（8章）
6. TQM推進段階別・部門別・地域
別の品質管理教育（9章、付録）
7. 質疑応答

詳細・申込：https://jsqc.org/std41-001_2022/

●第144回講演会（中部）

テーマ：顧客価値を創造し続けるスマート
コンストラクション最新の挑戦

日 時：2022年5月13日（金）13:00～14:15
会 場：Zoom会議室（オンライン）
講演者：四家 千佳史 氏（小松製作所）
詳細・申込：<https://jsqc.org/144lecture/>

●第22回「安全・安心のための管理技 術と社会環境」ワークショップ

安全・安心な社会の実現を目指して

テーマ：品質不正、規制と自主的マネジメ
ント、科学的問題解決法のエデュ

日 時：2022年5月14日（土）13:00～17:30
会 場：Cisco Webex Event（オンライン開催）
詳細・申込：https://jsqc.org/22ss_ws/

●第128回研究発表会（本部）発表募集

日 時：2022年5月28日（土）
会 場：検討中（オンラインまたは
日科技連・東高円寺ビル）

- (1) 申込期限
発表申込締切：3月18日（金）
予稿原稿締切：4月25日（月）必着
参加申込締切：5月20日（金）
- (2) 研究発表・事例発表の申込方法
https://jsqc.org/128technical_cfp/
- (3) 参加申込
3月下旬にホームページにてご案内します

事務局

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本 部：E-mail：jimukyoku@jsqc.org

中部支部：E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

第51年度研究助成募集中

応募締切：2022年3月末日
詳細：<https://jsqc.org/category/news/jimukyoku/>

「品質」誌、投稿論文の募集！

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、
報文、技術ノート、調査研究論文、
応用研究論文、投稿論説、
研究速報論文、クオリティレ
ポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

会員登録情報 更新のお願い

会員登録情報は、学会ホームページから確認・修正変更することができます。

転勤や異動など会員登録情報に変更がありましたら、「会員データベース（会員専用ページ）」より更新してください。

関西支部：530-0003

大阪市北区堂島2-4-27

JRE堂島ビル11階

日本科学技術連盟 大阪事務所内

E-mail：kansai@jsqc.org

（2/1よりビル名が変更となりました）

ANQ Congress 2022 Beijing

2022年10月26日（水）～28日（金）に中国の北京にて、ANQ Congress 2022が開催されます。

テーマ：Together for a Shared Future of Quality: Digitalization, Sustainability and Ecosystem

会 場：ハイブリッド開催予定

JSQCからの発表希望者はJSQCを通じて発表申込み、アブストラクト等を提出していただきます。
なお、JSQCの英文電子ジャーナル「Total Quality Science (TQS)」への投稿・掲載を検討されている方は、
JSQCからの申込みとANQ 2022での発表が必須です。

アブストラクト：A4・2ページ、英語または日本語

発表申込み締切：未定

申し込み先：<https://www.editorialmanager.com/tqs/default1.aspx>

詳細につきましては、JSQCホームページに掲載いたします。

https://jsqc.org/anq_2022/